

クラシック選手権の部優勝者コメント

日光インカレを振返って

クラシック選手権の部(WE)優勝

小林啓恵（東北大学3）

山口が終わってからはすぐに日光インカレ（ショートも含め）に向けて何かをしたわけではなかった。東北大会の中心が3年生なのでどちらかというと頭はそっちのほうばかりでいっぱいだった。もちろんインカレショートが東北大OL大会の数週間後にあったのでそのための準備もしていた。特に落ち着いてレースができるようにイメージしていた。しかし、正置がしっかりできていなかったため、結果として山口インカレで同じ表彰台にのぼったみんながまた表彰台に上がっているなか、危うく予選落ちというレースをしてしまった。

直前のOC大会ではつぼったことを考慮してもあまりにも差が着きすぎていることがショックだった。（漠然と）体力をどうにかしなくちゃと思った。それぐらいしか今はもうできないと。そんな無理をしたら故障するかもしれないことは承知していたが、走らずにはいられなかった。2週間前だというのにかなり走った。実際には量よりも、地図読みしながらちょっとハイペースで午前中に走ったのがよかった。

そんなこんなであっという間にクラシカル。スタートに行く時点で「山口は自分向きの走れるトレインだったけど今回は違う、ということは今回がクラシカルで初エリートを走ることと同じだ。自分のOLをして、学生の中でのレベルが実際にどのくらいなのかをはっきりさせたい。せっかくの日光で自分のOLをしないのはもったいない。」と思った。成績を気にするというより日光を満喫したいという気持ちが強かった。とはいえ、「勝つには始めからスピードを出すしかない」とも思っていたから結構成績も気にしていたらしい？レース中盤も成績のことを考えた。そのときは「とても優勝はできない（すでにへろへろだった）。それどころか入賞もこんなスピードでは無理だろう。でも、自分なりに楽しめているからいいや。」と思った。一度集中力がすっかりなくなったが、幸いにもその後がテープ誘導だったのでその間に立て直すことができた。ラスポゴールは「みんな私が入賞も無理なことわかっていてもあんなに必死に併走してくれる。（その併走に）負けない様に走らないと。」とひとり被害妄想に陥りながら走っていた。応援のおかげで最後は頑張れた。本当にありがとうございます。

そして長い時間かけて準備してくれた運営者の方々ご苦労様でした。楽しかったです。